



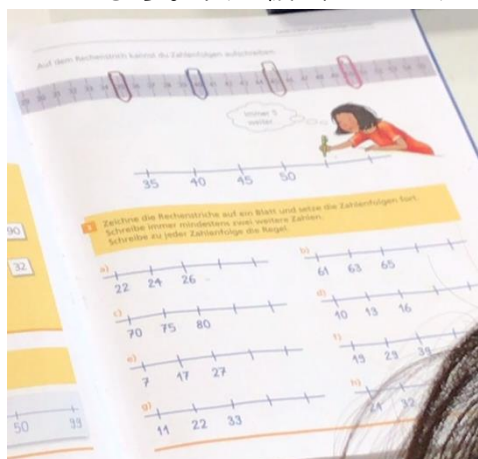
現地校の視察と交流

スイスの小学校の視察へと行ってきました。スイスの小学校の教室は日本のように大人数での授業は行われておらず、1教室に20人前後となっていて、教室には教員が2人いることが多いです。また、授業はさらに2つに分かれることがあり、少人数での授業が徹底されているように感じました。さらに驚くのは教員の働き方です。視察した学校は全部で60人近い教員が働いていますが、フルパートタイム（100%）で働いている人はごくわずかで、ほとんどの場合はパートタイムで教員をしています。他の学校とかけ持っていることもめずらしくないそうです。日本とは全く異なる仕組みになっています。

教科は日本とそんなに大きくは変わりません。しかし、「理科」という教科が無く、「自然と周りの人々」という教科があるそうです。外国語学習はかなり特殊です。まず、2年生から英語の学習が始まります。その後、第3外国語となるフランス語の授業が高学年からスタートしていきます。

スイスは、ドイツ語（65%）とフランス語（23%）、イタリア語（11%）、ロマンシュ語（1%）という公用語があります。（厳密な数値ではないようですが。）私の住むチューリッヒ州はドイツ語圏に属し、英語がかなり通じる地域です。（イタリア語圏に行くと、本当に英語が通じなくなります！）したがって、州の決まりとして外国語の中でも、英語を優先して教えていくことになっています。また、日本のように「学習指導要領」がありません。教育の内容については、各26州が独自に決めています。

スイスの学校の仕組みは日本との違いが多く、一度に説明することが難しいので、今回はここまでにします。次の機会ではスイスの「進学システム」について紹介できればと思います。



左、左下、右下

2年生算数の授業です。数直線の学習をしていましたが、100までの数を学んでいました。やり方は基本的に日本と変わらなかったのですが、説明する時間よりも問題を解いている時間の方が多かったように思います。できた子から先生の用意している発展プリントのようなものを取り組んでいました。

真ん中下：スクールゾーンの説明に「タバコ禁止」、「酒禁止」、「大麻禁止」の表示がありました。さすがヨーロッパ(笑)

